パートナーシップ事業 ESD AICHI-NAGOYA

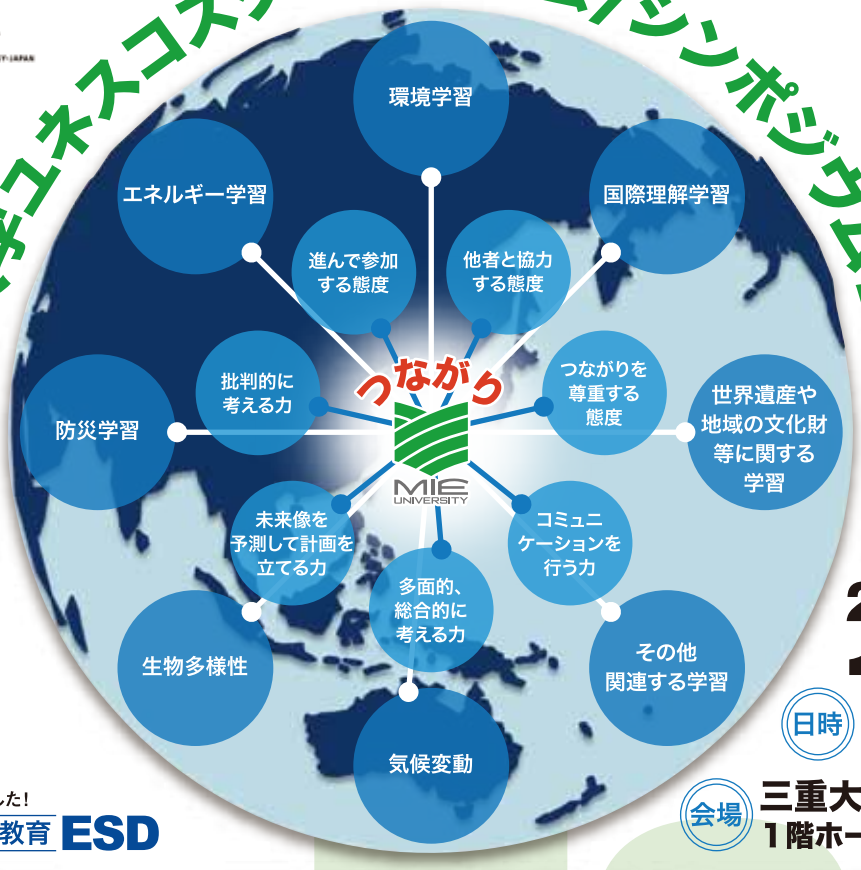
本事業は、「ESD in 三重 2014」の一環として開催されます。

MEXT MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

平成26年度 日本／ユネスコパートナーシップ事業

Post-ESD

三重大学ユネスコスクール研修会／シンポジウム2014



参加費無料

日時 2014年12月6日(土) 14:00～17:00

会場 三重大学環境・情報科学館 1階ホール 定員100名

三重大学は11月7日～12日に「ESD in 三重 2014」を開催しました！

持続可能な開発のための教育 ESD

「ESD in 三重2014」国際会議

～ESDに関するユネスコ世界会議の成果・今後の展望～

13:30～14:00 受付

14:00～14:10 開会　挨拶　内田淳正 三重大学長

14:10～14:50 報告
- 「ESD in 三重 2014」報告　朴 恵淑 三重大学理事・副学長
- 「ESD in 三重 2014」映像上映
- アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）ユース宣言（日本語/英語）

14:50～15:50 基調講演　「ユネスコESD世界会議～成果とESDの新たな旅立ち～」
加藤重治 独立行政法人 理化学研究所 理事長特別補佐（前文部科学省国際統括官）

15:50～16:00 休憩

16:00～17:00 活動事例報告　ユネスコスクール活動事例報告
- 名張市立薦原小学校
- 学校法人梅村学園 三重中学校・三重高等学校
- 鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校
- 学校法人セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校
- 三重大学教育学部附属中学校
- 三重大学ユネスコスクール学生委員会
  - 三重大学環境ISO学生委員会
  - 三重大学災害ボランティア支援団体（MUS-net）
  - 防災学習部会

17:00 閉会

主催：国立大学法人 三重大学/国際環境教育研究センター

後援：日本ユネスコ国内委員会/三重県/三重県教育委員会/三重県私学協会/三重県ユネスコ連絡協議会/津市/津市教育委員会/松阪市/松阪市教育委員会/鈴鹿市/鈴鹿市教育委員会/名張市/名張市教育委員会/亀山市/亀山市総合環境研究センター/鳥羽市/熊野市/熊野市教育委員会/Atmosphere（Environmental）Action Network in East Asia（AANEA/EANEA）/伊勢湾再生推進会議/公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟/M-EMS環境倶楽部/一般社団法人 M-EMS認証機構/一般財団法人 三重県環境保全事業団/特定非営利活動法人 三重スローライフ協会/三重県地球温暖化防止活動推進センター/公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター/三重県総合博物館/斎宮歴史博物館/海の博物館/中部電力株式会社/三重県環境整備事業協同組合/株式会社光機械製作所/ NHK津放送局/株式会社ZTV/三重テレビ放送株式会社/朝日新聞社/伊勢新聞社/産経新聞社/中日新聞社/毎日新聞社/読売新聞/

お問合せ先
国立大学法人 三重大学
〒514-8507 津市栗真町屋町1577
国際環境教育研究センター支援室
TEL(059)231-9976・9823　FAX(059)231-9859
E-mail：esd2014@gecer.mie-u.ac.jp　ホームページ：http://www.gecer.mie-u.ac.jp/

本事業は、平成26年度ユネスコ活動費補助金
（グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業）
として採択され、実施されます。

日本/ユネスコパートナーシップ事業

パートナーシップ事業 ESD AICHI-NAGOYA

ESD in 三重 2014

～アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）ユース世界会議～

「世界一の環境先進大学」三重大学

期間 2014. 11.7(金)～12(水)

11月7日(金)

アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習

場所：勢水丸／海の博物館／海女小屋（国崎）

11月8日(土)

ESDエクスカーション

場所：松名瀬干潟／斎宮歴史博物館

11月9日(日)

ESDエクスカーション・分科会

場所：三重県総合博物館（MieMu）／三重大学 環境・情報科学館

11月10日(月)

10:00～11:00 一般参加無料

「映画"WOOD JOB！"と三重大学演習林」企画展オープニング

場所：三重大学 レーモンドホール

13:30～17:30 定員200名 | 一般参加無料

アジア・太平洋環境コンソーシアムESD国際シンポジウム

場所：三重大学 環境・情報科学館 1階ホール

- 環境コンテスト・ECOアイデア表彰式
- 基調講演1『瀬戸内海・犬島におけるESD教育プログラムの開発 ～ワークショップ事例発表：いぬじま探検隊～』
  講演者／森下眞行 岡山県立大学 学科長・研究科長・教授
  事例発表者／岡山県立大学デザイン学部学生
- 基調講演2『食とエネルギーの環境大国デンマークの経験に学ぶ』
  講演者／ピーター D. ピーダーセン リーダーシップアカデミーTACL代表
- 記念講演『日本における国連ESDの10年の成果・課題と今後の展望』
  講演者／阿部　治 立教大学教授・ESD研究所所長・日本環境教育学会会長
- 分科会成果発表
- アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）ユース宣言

11月10日(月)～12日(水)

三重大学ブース運営

場所：名古屋国際会議場

11月12日(水) 17:00～18:30

三重大学セミナー「ESD in 三重2014」

場所：名古屋国際会議場

問い合わせ・申し込み先

三重大学
国際環境教育研究センター支援室（担当 亀山）
☎(059)231-9976・9823　FAX(059)231-9859
esd2014@gecer.mie-u.ac.jp
http://www.gecer.mie-u.ac.jp/

主催：国立大学法人 三重大学/国際環境教育研究センター

後援：日本ユネスコ国内委員会/環境省中部地方環境事務所/三重県/三重県教育委員会/三重県私学協会/三重県ユネスコ連絡協議会/津市/津市教育委員会/松阪市/松阪市教育委員会/鈴鹿市/鈴鹿市教育委員会/名張市/名張市教育委員会/亀山市/亀山市総合環境研究センター/鳥羽市/熊野市/熊野市教育委員会/公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟/一般社団法人 M-EMS認証機構/一般財団法人 三重県環境保全事業団/公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター/Atmosphere（Environmental）Action Network in East Asia（AANEA/EANEA）/特定非営利活動法人 三重スローライフ協会/三重県地球温暖化防止活動推進センター/伊勢湾再生推進会議/M-EMS環境倶楽部/三重県総合博物館/斎宮歴史博物館/海の博物館/中部電力株式会社/三重県環境整備事業協同組合/株式会社光機械製作所/NHK津放送局/株式会社ZTV/松阪ケーブルテレビ・ステーション株式会社/三重テレビ放送株式会社/朝日新聞社/伊勢新聞社/産経新聞社/中日新聞社/毎日新聞社/読売新聞

目　次

「ESD in 三重 2014」報告 ・・・ 1～6

アジア・太平洋持続可能な開発のための教育(ESD)ユース宣言(日本語／英語) ・・・・・・・・・・・・・ 7～8

PartⅠ 報告「ESD in 三重 2014」報告
朴 恵淑 三重大学理事・副学長 ・・・ 9～17

PartⅡ 基調講演「ユネスコ ESD 世界会議～成果と ESD の新たな旅立ち～」
加藤 重治 独立行政法人 理化学研究所 理事長特別補佐
（前文部科学省国際統括官） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19～23

PartⅢ ユネスコスクール活動事例報告 ・・・ 25～64
1. 名張市立薦原小学校
2. 学校法人梅村学園 三重中学校・三重高等学校
3. 鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校
4. 学校法人セントヨゼフ女子学園 高等学校・中学校
5. 三重大学教育学部附属中学校
6. 三重大学ユネスコスクール学生委員会
6-1. 三重大学環境 ISO 学生委員会
6-2. 三重大学災害ボランティア支援団体(MUS-net)
6-3. 防災学習部会

PartⅣ 付表
1.「ESD in 三重 2014」 行程表 ・・ 65～70
2. 環境コンテスト受賞作品 ・・・ 71～73
3. ECO アイデア 2014 第 1 期 優秀賞受賞アイデア ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74～81
4. アジア・太平洋環境コンソーシアム ESD 国際シンポジウム 報告資料
「ESD in 三重 2014」 成果報告 朴 恵淑 三重大学理事・副学長 ・・・・・・・・ 82～85
5. アジア・太平洋環境コンソーシアム ESD 国際シンポジウム 講演資料 ・・・・・・・・・・・・ 86～99
基調講演① 「瀬戸内海・犬島における ESD 教育プログラムの開発
～ワークショップ事例発表：いぬじま探検隊～」
森下 眞行 岡山県立大学 学科長・専攻長・教授
岡山県立大学デザイン学部学生
基調講演② 「食とエネルギーの環境大国デンマークの経験に学ぶ」
ピーター D. ピーダーセン リーダーシップアカデミーTACL 代表
記念講演 「日本における国連 ESD の 10 年の成果・課題と今後の展望」
阿部 治 立教大学教授・ESD 研究所所長・日本環境教育学会会長
6. 分科会発表資料 ・・・ 100～103
7.「ESD in 三重 2014」 関連放送・新聞掲載情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104～117

「ESD in 三重 2014」報告

11 月 7 日(金)アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習（三重大学附属練習船勢水丸）

11 月 7 日(金)アジア・太平洋ユース伊勢湾洋上国際環境学習（海の博物館・海女小屋（国崎））

11 月 8 日(土) ESD エクスカーション（松名瀬干潟）

11 月 8 日(土) ESD エクスカーション(斎宮歴史博物館)

11 月 9 日(日) ESD エクスカーション(三重県総合博物館)

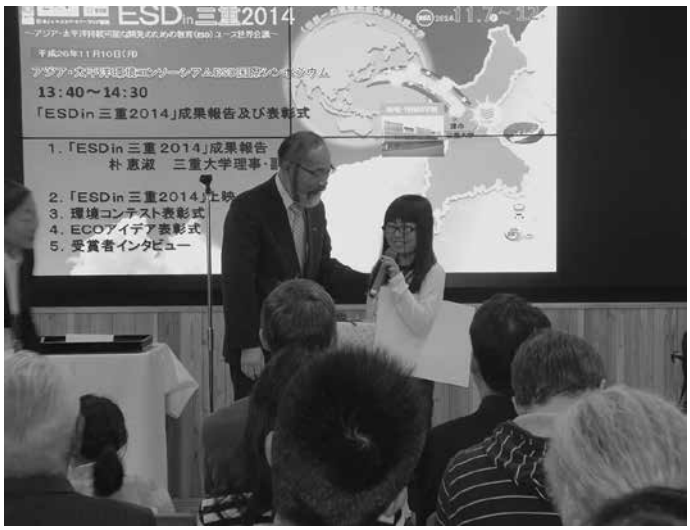
11月9日(日) 分科会

11 月 9 日(日) 分科会(全体会)

11 月 10 日(月) 「映画"WOOD JOB!"と三重大学演習林」企画展示オープニング

11 月 10 日(月) アジア・太平洋環境コンソーシアム ESD 国際シンポジウム

「ESD in 三重 2014」成果報告



環境コンテスト表彰式 ポスター部門

11 月 10 日(月) アジア・太平洋環境コンソーシアム ESD 国際シンポジウム

環境コンテスト表彰式　標語部門

環境コンテスト表彰式　壁新聞部門

ECO アイデア表彰式

基調講演①

基調講演②

記念講演

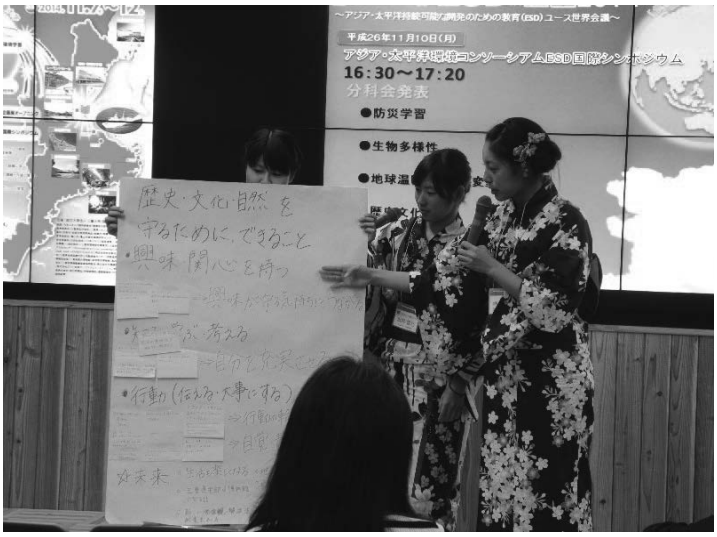
11 月 10 日(月) アジア・太平洋環境コンソーシアム ESD 国際シンポジウム

分科会発表　総括コーディネーター

分科会発表　防災学習

分科会発表　生物多様性

分科会発表　地球温暖化



分科会発表　歴史文化遺産

アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）
ユース宣言

11月10～12日 ESD交流フェスタ 三重大学ブース ・ 併催イベント パネル展示

三重大学ブース

パネル展示

11月12日(水) ESD交流セミナー「ESD in 三重2014」

「ESD in 三重2014」成果報告

分科会発表 総括コーディネーター

分科会発表 国際理解

アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）
ユース宣言

アジア･太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）

ユース宣言

この度ESD in 三重2014に参加した私たち、アジア・太平洋地域のユースは、伊勢湾洋上国際環境学習など、環境及び文化に触れる様々なプログラムを体験しました。この貴重な体験を生かし、持続可能な社会をつくるためにこの宣言文を作成しました。

現在、気候変動や生物多様性の減少、環境悪化に伴う社会的・経済的な不公平のような、国境を越えた問題が起きています。これらの問題は将来になって、本人や周りに大きな影響を及ぼすことに違いありません。従って、私たちは、地球上のすべての命が調和する持続可能な世界を創るために、次のように宣言します。

１．危険や安全に対する意識を高め、日ごろから身の回りのリスクを回避するために備えます。
◎私たちは災害を自分にも起こりうるものとして捉え、危険について自発的に考えて、今日、明日、そして未来のために、知識を伝えていきます。
◎一人ひとりが各地域の特徴を把握して、災害に関する課題を見出し、それに対応できる力を養います。

２．今ある生態系を保護し、資源の有効活用のための活動を展開します。
◎私たちはエネルギーを大切にし、木を植え、環境に配慮した乗り物を使うことで二酸化炭素の排出を減らします。
◎あらゆる生物が共存していくために、再生可能エネルギーの重要性を広めていきます。

３．豊かな自然環境を次世代に残していくために努めます。
◎自然のバランスを保つために正しい知識を身につけ、次世代にも継承していきます。
◎環境保全活動に積極的に取り組み、世代を問わず、すべての人々への環境教育に力を注ぎます。

４．生活と環境の調和を保つために努めます。
◎環境問題を私たち自身の課題としてとらえ、遺産、文化、自然から得た知識を用いて、ともに行動します。
◎持続可能な社会づくりに必要な習慣をつけるために、伝統文化を保全、継承する意識を高め、実行します。

５．国際的な視点を持ち、アジア・太平洋ユースネットワークを強固にし、問題解決に協力します。
◎私たちは互いの言葉に耳を傾け、違いを理解、尊重し合い、行動に移します。
◎自国の習慣による固定観念にとらわれずに、さまざまな視点からものごとを考え、それを発信していきます。

私たちは、持続可能な社会づくりに向けて必要なことを考え、学び、平等で豊かな世界を目指します。自然と人間が調和し、命あふれる地球を未来に引き継ぐことを実現するために努めます。そのために、現代社会のおける問題に注意を向け、積極的に知識を習得し、解決に挑みます。この使命を果たすために、ともに努力を惜しまないことを、ここに宣言します。

2014年11月10日

MIE UNIVERSITY

Asia Pacific Education for Sustainable Development (ESD)

Youth Declaration

We, the youth from Asia and Pacific region who participated in "ESD in Mie", experienced various programs that exploring the environment and culture of Japan including the international environmental learning at Ise Bay. We developed this Declaration to contribute to the establishment of a sustainable society.

Today, the world is facing a number of global issues such as climate change, deterioration of biodiversity, and the many social and economic injustices that accompany environmental degradation. There is no doubt that these issues are harming our world. Therefore, we hereby make the following declarations to create a sustainable world in which all creatures on the earth can live in harmony. To do this:

1. We will raise awareness for disaster and safety, and prepare ourselves to avoid potential risks on a regular basis.
   - We will think for ourselves about possible dangers, share out thoughts and pass them on.
   - Understanding the characteristics of our own region, we will acquire power enough for supporting the issues related to the disasters.
2. We will preserve the current biodiversity and promote activities to facilitate an effective use of resources.
   - We will take action to reduce carbon dioxide, save energy by using ecological transportation, plant more tree.
   - We will advocate for the importance of renewable energy in order to the peaceful coexistence of all the living creatures.
3. We will try to preserve the rich natural resources for future generations.
   - We will gain the properly knowledge concerning how to maintain the balance and inherit it to next generation.
   - We will participate in environment conservation activities as much as we can and we will also introduce and involve environmental education for everyone.
4. We will maintain the harmony between the environment and human activities.
   - We promise that we will take interest in Heritage, Culture and Nature. From knowledge we have gotten, we will consider the environmental problems as our own issues and we will take action all together.
   - To create sustainable society and to have necessary behavioral, we will reinforce the significance of maintaining the traditional culture and we will practice accordingly.
5. Having global perspectives, we will strengthen the solidarity among Asia-Pacific Youth Network and work together to solve problems.
   - Listening to each other, we can understand the mutual differences, respecting each other, we will take the action.
   - We will not be swayed by the stereotypes brought from our own societies. We will also think about it from diverse perspectives, think deeply and our thoughts with others.

We will think about what is needed to create a sustainable society, to learn, and walk together towards achieving the goal of creating an equal and affluent world. We will strive to make our planet a lively place in which nature and human society are in harmony. In order to achieve such goals, we will focus on various problems facing modern society, enrich our knowledge and find innovative solutions. We hereby declare that we will work hard and spare no effort to fulfill our mission.

November 10,2014

MIE UNIVERSITY

Part Ⅰ　報告

「ESD in 三重 2014」報告

朴 恵淑

三重大学理事・副学長

「世界一環境先進大学」三重大学の「ESD in 三重 2014」成果報告

1. 「世界一環境先進大学」三重大学の環境戦略
2. スマートキャンパス／MIEUポイントとESD
3. 四日市公害から学ぶ「四日市学」とESD
4. 「ESD in 三重 2014」；持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議

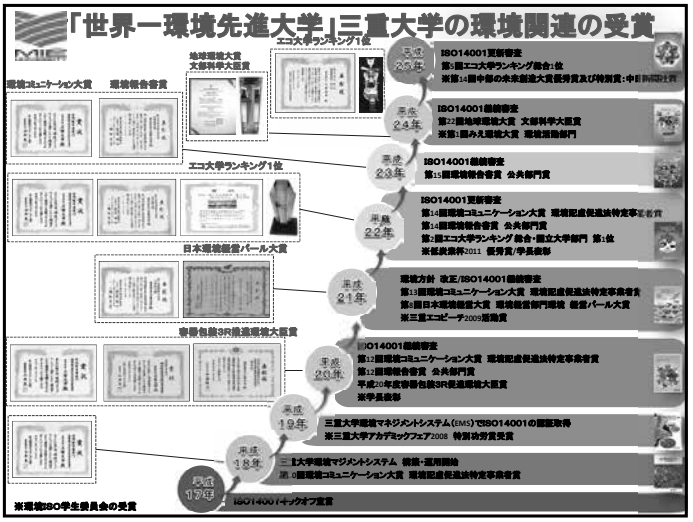
朴　恵淑（三重大学理事・副学長）

「世界一環境先進大学」三重大学の力を世界へ

三重から世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す
～人と自然の調和・共生の中で～

[三重大学概要]（H26.5.1.）
・敷地面積：5,511,692㎡
・建物延面積：326.695㎡
・学生数：7,298人
＊附属学校学生数：1,231人
・教職員数：1,852人
・H25年度エネルギー使用量
(電気)約27,640MWh
(ガス)約4,153,000m3
(A重油)約564kl
(CO2排出量)約20,966t-

「世界一環境先進大学」三重大学の環境関連の受賞



「世界一環境先進大学」三重大学の環境戦略

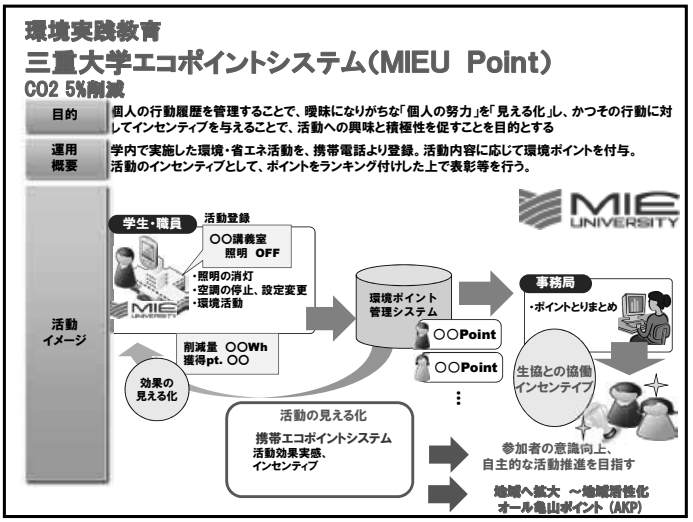
（1）産官学民連携の国際プラットホームの構築
- 「環境・情報科学館（MEIPL館）」開館（H24.3.6.）
- 「国際環境教育研究センター」発足（H26.4.1.）

（2）三重大学ブランドの持続発展教育(ESD)の推進
- 三重大学ブランドの環境教育・持続発展教育(ESD)
- → 四日市公害から学ぶ「四日市学」
- → 「ESD in 三重 2014」（2014年11月；ユネスコ世界会議）

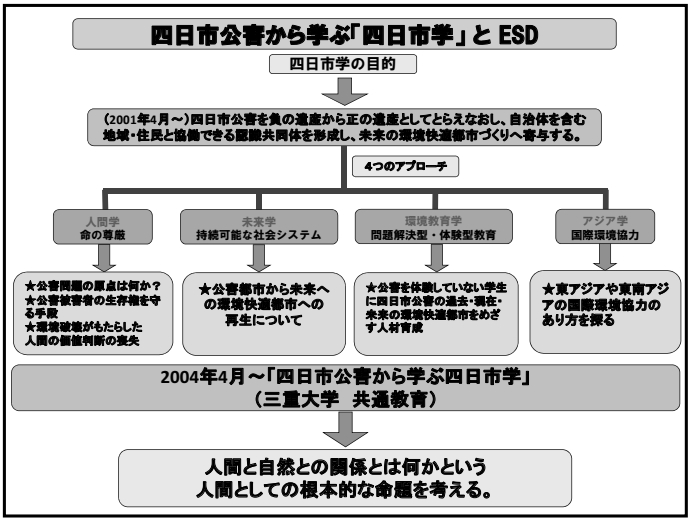
（3）スマートキャンパスの構築／MIEUポイントの発展
- 創エネ・蓄エネ・省エネによるエネルギー／CO2削減
- → 2020年までにCO2を約25%削減（2010年比）
- 環境活動へインセンテイブ付与によるエネルギー／CO2削減
- → 2020年までにCO2を約5%削減（2010年比）
- スマートコミュニテイへ拡大
- → オール亀山ポイントAKP; 2014年6月）

三重大ブランドの環境教育　持続発展教育(ESD)プログラム

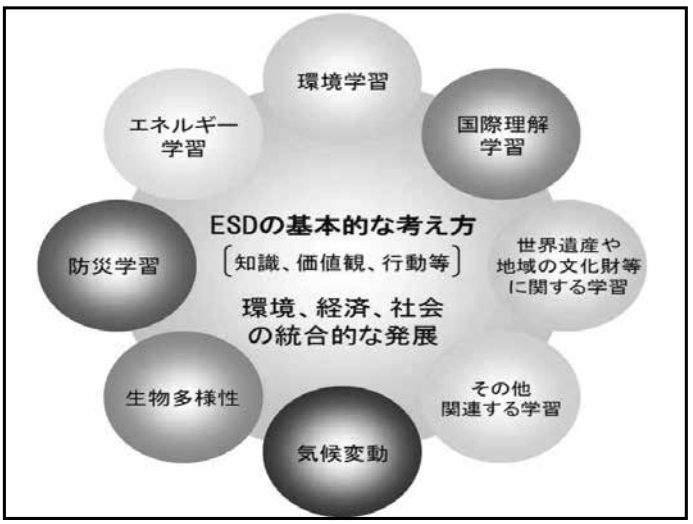
三重大学スマートキャンパス(MIESC): 創エネ・蓄エネ・省エネ
経済産業省「次世代エネルギー技術実証事業」日本の大学初！ CO2 27%削減
風力発電 (300kW)
・再生可能エネルギーの有効活用
エネルギーマネジメントシステム (EMS)
(1) 翌日の電力・熱需給予測
翌日のキャンパスの電気・熱需要、
再生可能エネルギーの発電量を予測。
(2) 翌日の運転パターンの予測
蓄電設備の充放電予測制御。
(3) デマンドレスポンス
再生可能エネルギーの発電量に合わせて
蓄放電制御と空調機を制御し、電力ピークを抑制。
太陽
風
気象データ
データベース
需要データ
スマートメーター
・キャンパス内の各部門の
電気使用量を監視
空調設備 (クールビズ/ウォームビズ対応)
・クールビズ/ウォームビズに
対応した省エネ空調
・デマンドレスポンス
クールビズ/ウォームビズ機
電気式ヒートポンプ
・LED照明の
直流給電
蓄電池
・電力ピーク
の低減
・変動抑制
電気の変動抑制
ガスコージェネレーション設備
・CO2削減のための
エネルギー転換
太陽光発電
・日照が良いキャンパスへの
太陽エネルギーの有効活用
電気式冷凍機
・コージェネの排熱を利用し、
省エネルギーを実現
伊勢湾
工学部
人文学部
医学部
教育学部
生物資源学部
附属病院
正門
MIE UNIVERSITY


環境実践教育
三重大学エコポイントシステム(MIEU Point)
CO2 5%削減
目的
個人の行動履歴を管理することで、曖昧になりがちな「個人の努力」を「見える化」し、かつその行動に対してインセンティブを与えることで、活動への興味と積極性を促すことを目的とする
運用概要
学内で実施した環境・省エネ活動を、携帯電話より登録。活動内容に応じて環境ポイントを付与。
活動のインセンティブとして、ポイントをランキング付けした上で表彰等を行う。
活動イメージ
学生・職員
活動登録
○○講義室
照明 OFF
・照明の消灯
・空調の停止、設定変更
・環境活動
削減量 ○○Wh
獲得pt. ○○
効果の見える化
環境ポイント管理システム
○○Point
○○Point
事務局
・ポイントとりまとめ
生協との協働インセンティブ
活動の見える化
携帯エコポイントシステム
活動効果実感、
インセンティブ
参加者の意識向上、
自主的な活動推進を目指す
地域へ拡大 ～地域活性化
オール亀山ポイント (AKP)
MIE UNIVERSITY

四日市公害から学ぶ「四日市学」
国際環境シンポジウム 平成24年7月21日（土）開催
写真展示会「四日市学」 平成24年6月1日（金）～7月31日（火）開催
四日市公害新鋭判決40周年記念国際環境シンポジウム
第1部
第2部
四日市公害から学ぶ四日市学」
～四日市公害の語り部と学生の交流会 平成24年6月6日（水）開催
MIE UNIVERSITY
四日市学


四日市公害から学ぶ「四日市学」と ESD
四日市学の目的
(2001年4月～)四日市公害を負の遺産から正の遺産としてとらえなおし、自治体を含む地域・住民と協働できる意識共同体を形成し、未来の環境快適都市づくりへ寄与する。
4つのアプローチ
人間学
命の尊厳
未来学
持続可能な社会システム
環境教育学
問題解決型・体験型教育
アジア学
国際環境協力
★公害問題の原点は何か？
★公害被害者の生存権を守る手段
★環境破壊がもたらした人間の価値判断の変失
★公害都市から未来への環境快適都市への再生について
★公害を体験していない学生に四日市公害の過去・現在・未来の環境快適都市をめざす人材育成
★東アジアや東南アジアの国際環境協力のあり方を探る
2004年4月～「四日市公害から学ぶ四日市学」
（三重大学 共通教育）
人間と自然との関係とは何かという
人間としての根本的な命題を考える。

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
UNESCO Associated Schools
ESD
ESD in 三重 2014
持続発展教育(ESD)に関するユネスコ世界会議(2013.11.10-12) 愛知・名古屋
CERTIFICATE
Mie University
Tsu City
Japan
is a participating institution in the UNESCO Associated Schools Network
The Education for International Cooperation and Quality Education for All
Koichiro Matsuura
Director-General of UNESCO
日本初！（総合大学）
三重大学のユネスコスクール認定
(2009.8.21)
北海道教育大学釧路校（ＥＳＤ推進センター）、岩手大学、東北大学大学院環境科学研究科、宮城教育大学、立教大学ＥＳＤ研究センター、玉川大学教育学部、金沢大学、三重大学、奈良教育大学、岡山大学、九州大学大学院言語文化研究院
〔加盟大学〕（2011年12月現在）


環境学習
エネルギー学習
国際理解学習
防災学習
ESDの基本的な考え方
〔知識、価値観、行動等〕
環境、経済、社会
の統合的な発展
世界遺産や地域の文化財等に関する学習
生物多様性
その他関連する学習
気候変動

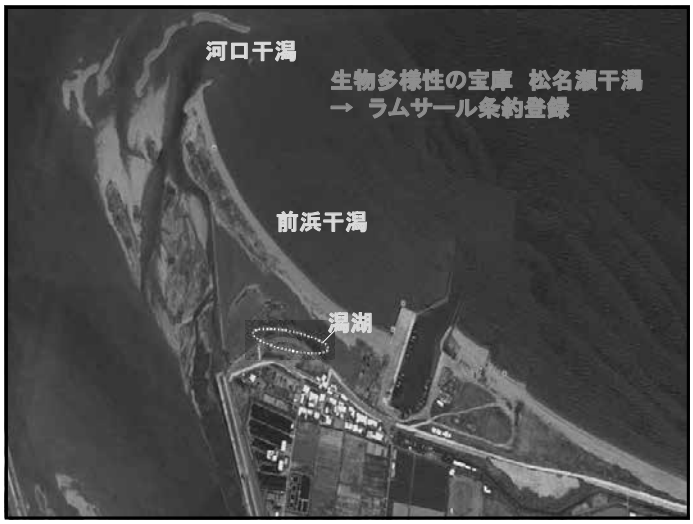
「ESD in 三重 2014」

(1)文部科学省「ユネスコ活動費補助金)グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業)」採択(平成26年度～28年度)

(2)参加者:19ヵ国　210名(中・高・大学)
中国 27名、韓国 25名、ドイツ 7名、ベトナム 5名、タイ 2名、バングラデシュ 2名、スウエーデン 2名、インドネシア 1名、インド 1名、トルコ 1名、ウダンダ 1名、ロシア 1名、ハンガリー 1名、フランス 1名、スペイン 1名、デンマーク 1名、アメリカ 1名、ブラジル 1名、日本 129名

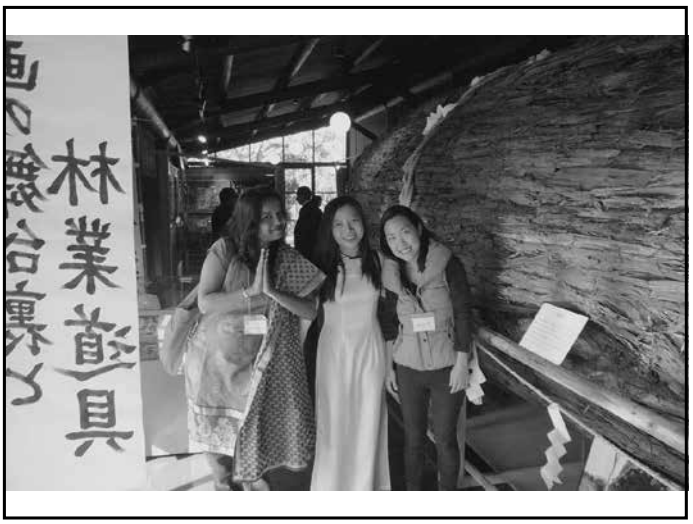
(3)「ESD in 三重2014」
- 三重県の環境に関する過去・現在・未来を考える
- 三重県の環境文化に気づく
- 三重から世界へ誇れる環境人材・グローバル人材を育つ
- アジア・太平洋・世界のユースESDネットワークを創る

勢水丸
・総トン数　318トン
・長さ（全長）50.90m
・幅（型）　8.60m
・航海速力　12ノット


河口干潟
生物多様性の宝庫　松名瀬干潟
→ ラムサール条約登録
前浜干潟
潟湖

2014.11.08

海女文化→ ユネスコ世界文化遺産登録


林業

ESD

アジア・太平洋持続可能な開発のための教育（ESD）

ユース宣言

この度ESD in 三重2014に参加した私たち、アジア・太平洋地域のユースは、世界遺産巡礼学習など、環境及び文化に触れる様々なプログラムを体験しました。この貴重な体験を生かし、持続可能な社会をつくるためにこの宣言文を作成しました。

現在、気候変動や生物多様性の減少、環境悪化に伴う社会的・経済的な不公平のような、国境を越えた問題が起きています。これらの問題は将来になって、本人や周りに大きな影響を及ぼすことに違いありません。従って、私たちは、地球上のすべての命が調和する持続可能な世界を創るために、次のように宣言します。

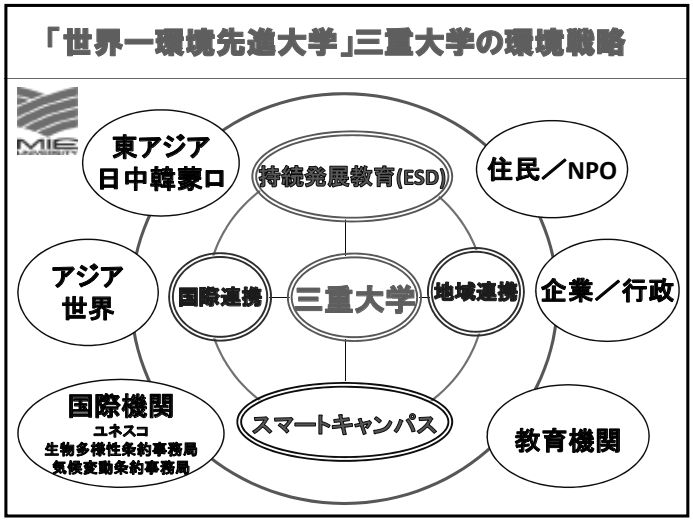
1．危険や安全に対する意識を高め、日ごろから身の回りのリスクを回避するために備えます。
　●私たちは災害を自分にも起こりうるものとして捉え、危険について自発的に考えて、今日、明日、そして未来のために、知識を伝えていきます。
　●一人ひとりが各地域の特徴を把握して、災害に関する問題を見出し、それに対応できる力を養います。
2．今ある生態系を保護し、資源の有効活用のための活動を展開します。
　●私たちはエネルギーを大切にし、木を植え、環境に配慮した乗り物を使うことで二酸化炭素の排出を減らします。
　●あらゆる生物が共存していくために、再生可能エネルギーの重要性を広めていきます。
3．豊かな自然環境を次世代に残していくために努めます。
　●自然のバランスを保つために正しい知識を身につけ、次世代にも継承していきます。
　●環境保全活動に積極的に取り組み、世代を問わず、すべての人々への環境教育に力を注ぎます。
4．生活と環境の調和を保つために努めます。
　●環境問題を私たち自身の問題としてとらえ、地産、文化、自然から得た知識を用いて、ともに行動します。
　●持続可能な社会づくりに必要な習慣をつけるために、伝統文化を保全、継承する意識を高め、実行します。
5．国際的な視点を持ち、アジア・太平洋ユースネットワークを強固にし、問題解決に協力します。
　●私たちは互いの言葉に耳を傾け、違いを理解、尊重し合い、行動に移します。
　●自国の習慣による固定概念にとらわれずに、さまざまな視点からものごとを考え、それを発信していきます。

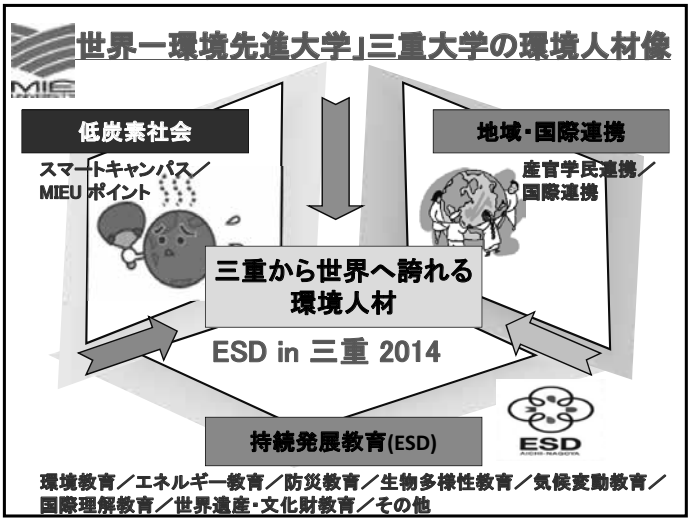
私たちは、持続可能な社会づくりに向けて必要なことを考え、学び、平等で豊かな世界を目指します。自然と人間が調和し、命あふれる地球を未来に引き継ぐことを実現するために努めます。そのために、現代社会における問題に注意を向け、横断的に知識を習得し、解決に挑みます。この使命を果たすために、ともに努力を惜しまないことを、ここに宣言します。

2014年11月10日

国立大学法人 三重大学
2014.11.11

国立大学法人 三重大学
青山和裕(愛知教育
ESD in 三重2014


「世界一環境先進大学」三重大学の環境戦略
東アジア
日中韓蒙ロ
持続発展教育(ESD)
住民／NPO
アジア
世界
国際連携
三重大学
地域連携
企業／行政
国際機関
ユネスコ
生物多様性条約事務局
気候変動条約事務局
スマートキャンパス
教育機関


世界一環境先進大学」三重大学の環境人材像
低炭素社会
スマートキャンパス／
MIEU ポイント
地域・国際連携
産官学民連携／
国際連携
三重から世界へ誇れる
環境人材
ESD in 三重 2014
持続発展教育(ESD)
環境教育／エネルギー教育／防災教育／生物多様性教育／気候変動教育／
国際理解教育／世界遺産・文化財教育／その他

PartⅡ 基調講演

「ユネスコ ESD 世界会議～成果と ESD の新たな旅立ち～」

加藤 重治

独立行政法人 理化学研究所 理事長特別補佐

（前文部科学省国際統括官）

ユネスコESD世界会議
～成果とESDの新たな旅立ち～

2014年12月

独立行政法人理化学研究所理事長特別補佐
(前文部科学省国際統括官)

加藤　重治

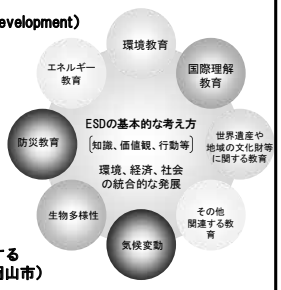
Ⅰ　持続可能な開発のための教育（ESD）について

1.　「ESD（持続可能な開発のための教育）」とは？

ESD＝Education for Sustainable Developmentの略。
持続可能な社会の担い手を育むため、地球規模の課題を自分のこととして捉え、その解決に向けて自分で考え行動を起こす力を身に付けるための教育。

2.「国連ESDの10年」(UNDESD)について
(United Nations Decade of Education for Sustainable Development)

- 2002年　ヨハネスブルクサミットで我が国が提案
- 2002年　国連決議（第57回総会）
  - ・　2005～2014年の10年
  - ・　ユネスコを主導機関に指名
- 2005年　DESD国際実施計画をユネスコにて策定
- 2009年　ESD世界会議（ボン）
  - ・　ボン宣言の採択
- **2014年　持続可能な開発のための教育（ESD）に関する ユネスコ世界会議　（愛知県・名古屋市／岡山市）**



1

①DESDの取組から明らかになったESDの推進のための知見（出典：ユネスコDESD最終レポート）

持続可能な開発を実現するためのESD

1. 持続可能性の問題に対処する教育制度
2. 持続可能な開発のアジェンダと教育アジェンダの統合

ステークホルダーのESDへの関与の重要性

3. 政策的リーダーシップの重要性
4. 特に有効であるマルチステークホルダーのパートナーシップ
5. 地域のコミットメントの発展

教授法の革新を喚起するESD

6. ESDの実践を支援する機関包括型アプローチ
7. 学習者主導の双方向の教授法を促進するESD

教育の全てのレベル及び分野に広がるESD

8. 公教育へのESDの導入
9. ノンフォーマル及びインフォーマルなESDの拡大
10. 持続可能な開発を前進させる技術・職業技術教育及び研修

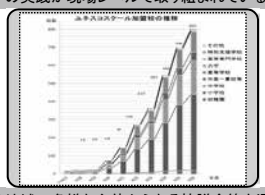
2

②ジャパンレポートについて

＜ジャパンレポートにおけるDESDの主な成果＞

○政府が策定する教育計画（教育振興基本計画）及びカリキュラムを編成する際の基準（学習指導要領）にESDの理念を盛り込んだこと

○2006年に20校であったユネスコスクール加盟数は、世界最多となる807校まで増加し、様々なESDの実践が現場レベルで取り組まれていること



ESDの現場レベルでの実践例
○　ESDに取り組む多くの学校で、年間計画やESDカレンダーに基づき、計画的にESDが展開。

○　全国5か所において、大学や教育委員会を中心に、ユネスコスクールを構成メンバーに含むESD推進のためのコンソーシアムを、国による財政支援で開始。

※ユネスコスクールとは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校。

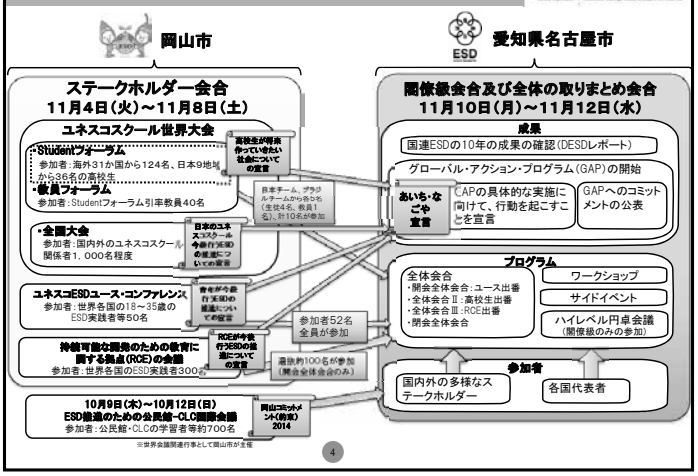
○地域の多様な主体からなる協議会等を通じた地域ぐるみの先駆的取組が広がっていること

岡山市や宮城県気仙沼市における先行事例は、日本国内でのモデルや、国際連合大学が国際的に展開しているRCE（持続可能な開発のための教育に関する地域の拠点）のモデルにもなった。

※これらの成果等については、「ジャパンレポート」として取りまとめ、公表している。
ジャパンレポートの本文については、最後のページのURLをご参照ください。

3

Ⅱ　ESDに関するユネスコ世界会議について



4

①「ESDに関するユネスコ世界会議」の開催概要

1．参加国・閣僚者数等
　1）愛知・名古屋（11月10日（月）～12日（水））
　　○正式参加者：　150か国・地域　1，000名以上
　　○閣　僚　級：　76名（大臣：52名、その他：24名）
　　○併催イベント：　約900名
　2）岡山（11月4日（火）～8日（土））
　　○ステークホルダー会合参加者：　約1，800名
　　（Studentフォーラム、教員フォーラム、ユネスコスクール全国大会、ユース・コンファレンス等）

2．世界会議における成果
　1）採択された各種宣言
　　①「あいち・なごや宣言」
　　②「ESD推進のためのユネスコスクール宣言」
　　③「ユース・ステートメント」
　　④「ユネスコスクール世界大会Student(高校生)フォーラム共同宣言」
　2）「国連ESDの10年」の後継プログラムである「グローバル・アクション・プログラム」（GAP）開始の正式発表
　3）「ユネスコ／日本ESD賞」創設の正式発表
　　GAPの具体的な実施を促進するため、ESDへの若者の参加の支援、ESDへの地域コミュニティの参加の促進などGAPの5つの優先行動分野のうち、一つ以上の分野で活発に活動している個人又は団体を表彰する。（1件当たり5万米ドル。毎年3件を表彰。）

開会全体会合

ハイレベル円卓会議

5

②「あいち・なごや宣言」

1 これまでの評価

1. 国連ESDの10年に多くの実質的な優れた取組が出たことを祝す。
2. ユネスコ／日本ESD賞の創設を評価する。

2 今後に向けた呼びかけ

【全てのステークホルダーへ】

・フォーマル、ノンフォーマル、インフォーマルな環境におけるGAP開始のモメンタムを構築、維持。

・GAPの五つの優先行動分野におけるモニタリング、評価の方法を強化。

・ユースをキーとなるステークホルダーとして巻き込む。

【ユネスコ加盟国政府へ】

・教育政策とカリキュラム のESDのゴール達成度を評価し、教育、訓練、職能開発へESDを導入。

・GAPの五つの優先行動分野に沿った政策を行動に移すため、実質的資源を配分、集結。

・ユネスコ世界会議の成果をポスト2015年アジェンダへ反映。

【ユネスコ事務局長へ】

・ESDのグローバルリーダーシップを提供。

・ユネスコスクール等のネットワークを活用し、ESD実施のための新たなモメンタムを構築。

・ESDの資金を含む適切な方策を保証する重要性を支援。

6

③「ユース・コンファレンス」

【概要】

○全世界から応募のあった約5,000名の中から選ばれた18歳から35歳までのESD実践者・研究者48か国50名（うち3名が日本人）が、各々がこれまで培ってきた経験や知識を共有し、2015年以降のESDの推進について議論を行った。

○会議に先立ち、9～10月にかけて参加者はオンラインディスカッションを実施した。

【成果】

○今後のESDの推進に向けて、ユースとしてやるべきこと、また、ユースの参加促進に向けて必要なことをまとめた宣言、「ユース・ステートメント」を策定した。

○「ESDに関するユネスコ世界会議」に50名全員が出席、さらに代表1名が全体会パネリストとして登壇した。

7

④ ユネスコスクール世界大会「高校生フォーラム」

【概要】

○日本を含む世界32ヶ国から40チーム（1チームは高校生4人、教員1人で構成）が参加し、これまでESDを学習してきた成果を背景にプレゼンテーションとディスカッションを行った。

○岡山と大阪のユネスコスクールを中心とした高校生約600名が会議運営を行った。

【成果】

○高校生の立場からESDについて発信していくこと、地球に生きる一員としての自覚を持つこと、個人の明確な目標を明らかにすること等をまとめた「共同宣言」を策定した。

○「ESDに関するユネスコ世界会議」に岡山チーム（日本）とブラジルチームが出席し、ブラジルチームから代表1名が全体会合にパネリストとして登壇した。

○ワークショップで岡山チームが高校生フォーラムの成果について発表した。

8

⑤ ユネスコスクール世界大会「第6回ユネスコスクール全国大会」

【概要】

○海外32国からの参加者も得て、日本のユネスコスクール関係者約1,000名が参加し、全体会においては、ESD大賞の授賞式と受賞校による発表、国内外の交流実践発表等を行うとともに、分科会においては実践事例の発表、プレゼンテーションやテーマ別交流研修会を行った。

【成果】

○日本のユネスコスクールとして、今後、地域の人々等との協働、国内外のユネスコスクールとの交流、ユネスコスクールの全国ネットワークをつくること等を宣言するとともに、学校による更なるＥＳＤの推進に向け、ユネスコスクールからの提言をまとめた「ユネスコスクール岡山宣言」を策定した。

○日本のユネスコスクールの優れたESD活動の事例を収集・整理した優良活動事例集（日本語版・英語版）を配布した。

9

⑥グローバル・アクション・プログラム（GAP）の公式な開始

・「国連ESDの10年」の後継プログラムとして位置付ける

・下記５点を優先分野として2015年以降のＥＳＤの取組を推進する

・各ステークホルダーからのコミットメントが収集される

5つの優先行動分野

政策的支援	機関包括型アプローチ	教育者	ユース	ローカルコミュニティ

ケニア教育省	カナダ・マニトバ州教育省	ヨルダン・教員アカデミー	コスタリカ・地球憲章	ナミビア・NaDEET
ESDを盛り込んだ国定カリキュラムの策定	州内の全学校(約750)でESD School Planを策定	教員のためのネットワーク、ESDの研修コース等を提供	ユースがユースのためのオンラインプログラムを作成	NaDEETセンターと学校のプログラム、地域社会での活動を通じたプログラムの展開

80か国のステークホルダーから計363件提出されたコミットメントのうちの主なもの

10

⑦「ユネスコ／日本ESD賞」創設の発表

「国連ESDの10年」の後継プログラムである「グローバル・アクション・プログラム」（GAP）の具体的な実施を促進するため、GAPの五つの優先行動分野のうち、一つ以上の分野で活発に活動している個人又は団体を表彰する。

○実施期間：　GAPが実施される5年間（ 2015～2019年）

○奨　励　金：1件当たり5万米ドル　×　毎年3件

○公募・選考：ユネスコ加盟国等の推薦に基づき、外部有識者から成る審査会による選考を経て、事務局長が決定。

GAPの各優先行動分野のうち、組織的・体系的なESDの実施を促進することを目指し、特にその取組が国際的に広まる潜在力を有するかどうかという観点から選定。

11

Ⅲ　今後のESDについて

多様化の時代におけるユネスコ活動の活性化についての提言　～
持続可能な社会の構築を目指して～
（平成26年3月31日　日本ユネスコ国内委員会）

Ⅱ．学校教育・社会教育等を通じた持続可能な開発のための教育（ESD）の一層の推進

1．我が国の全てのユネスコスクールは、事業内容の質的向上に努めること。このためにも、国内若しくは国外のユネスコスクールとの交流事業を実施すること。また、ユネスコスクールのない県を解消するなどユネスコスクールの地域的偏在をなくすよう努めること。

2．ESDがユネスコスクール以外でも積極的に推進されるようコンソーシアムの形成、ESDに関する教員等への研修の充実、学習指導要領におけるESDのより一層の明確化、国及び地方公共団体の初等中等教育行政におけるESDの更なる推進等の施策を講じること。

3．各個人に今後求められる資質・能力の向上にESDがどのように貢献するかを理論的、実証的に明らかにするよう、評価指標の開発等の調査研究を進めること。

4．「ESDに関するユネスコ世界会議」において、我が国のこれまでのESDの取組や成果を発信するとともに、本世界会議終了後も上記１から３の達成に向けて、ユネスコ及びユネスコ加盟国と協働して取り組むこと。

12

御静聴ありがとうございます

ESD　**ポータルサイト**　https://www.esd-jpnatcom.jp/

ESD　Facebook　https://www.facebook.com/esd.jpnatcom/

日本ユネスコ国内委員会Web**サイト**　https://www.mext.go.jp/unesco/

日本ユネスコ国内委員会Facebook　https://www.facebook.com/jpnatcom/

DESD**ジャパンレポート**

http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokuren/pdf/report_h261009.pdf